

第2回「會津八一の歌を映す」写真コンテスト

秋艸道人賞に中原一磨さん(新潟市)

記念館主催による第二回写真コンテストは平成二十年春から募集を開始し、十二月一日〜十四日作品搬入を行い、同二十四日に審査委員会を開き、入賞六点、入選十

六点を決定しました。審査委員長を務めた浅井慎平氏(写真家・大阪芸術大学大学院教授)は「文学と写真とのコラボレーションという試みが写真の新しい道を切り開

く可能性を秘めている」と期待されています。

第2回 写真コンテストの結果

(応募総数) 五十七点

(応募者数) 四十人(県内二十二
人 県外十八人)

(入賞者) 六人

(入選者) 十六人(うち二人二点入
選あり)

浅井審査委員長の講評「歌の心を見事な映像に」

さまざまな写真コンクールがあるが、その中でこの秋艸道人賞ほど対象への深い理解を必要とするものはないと思っている。参加する写真家たちの情熱に敬意を持つ

て審査に臨んだ。幸いにも昨年第一回から大賞に素晴らしい作品を得た。はたしてそれが第二回の今年につながるのだろうか。少なくとも心配していたが、結果は昨年以上のものとなった。



【秋艸道人賞】

中原一磨 (61) 新潟市中央区 アマ18年

天地に われひとりいて 立つごとき このさびしさを 君はほ
ほは笑む 作品対象「蓮、薄、月、星」(鳥屋野濁)



【早稲田大学會津八一記念博物館館長賞】

赤塚 一 (61) 新潟県燕市 アマ30年

都辺を のがれ来たれば ねもごろに 潮うち寄する
ふるさとの浜 作品対象「流木」(佐渡市羽茂素浜)

秋艸道人の歌のころとその人格を現代的映像に映し撮って見事だった。審査員をはじめ関係者一同が意見を同じくしたことを素直に喜ぶたい。このコンクールはさまざまな可能性を秘めており、映像の文化としてだけではなく人間の存在へのまなざしとしての写真のありようをも、問いかけるものとしても大きな期待が持てる。會津八一記念館の未来にも意義あるものと再確認した。



【胎内市長賞】

淡路晃二 (48) 新潟市東区

アマ10年

水煙の 天つ乙女が 衣手の ひま
にも澄める 秋の空かな

作品対象「雲」(新潟県笹ヶ峰)



【新潟市長賞】

山口晴久 (54) 大阪府池田市 プロ30年
大寺の 円き柱の 月影を 土にふみつつ ものを
こそ思え 作品対象「南禅寺山門」



【BSN (新潟放送) 賞】

渡辺一寿 (47) 新潟県三条市 アマ2年
天地に われひとりいて 立つごとき この
さびしさを 君はほほ笑む
作品対象
「棚田に咲くひめさゆり」(三条市五百川)



【新潟日報社賞】

加藤喜次郎 (78) 福島市
アマ50年
水煙の 天つ乙女が 衣手の ひまに
も澄める 秋の空かな
作品対象
「観音寺 五重塔」(福島市上鳥渡)